

日本公民館学会 第3回研究大会プログラム

会場:さいたま共済会館(住所:さいたま市浦和区岸町7-5-14・048-822-3330(代))

日時:2004年11月20日(土)~21日(日)

参加費等:参加費2000円(※学生は1000円)※公開シンポジウムのみ参加される場合、参加費は無料です。別途懇親会費3000円

第1日 11月20日(土)

課題研究1「自治体改革と公民館」〈13:30~15:30 501・502 会議室〉

今日の自治体改革は、市町村合併による公民館の統廃合と、新自治体経営論による民営化である。市町村合併による広域化と指定管理者制度に代表される民営化による公民館への影響を踏まえ、公民館の展望を多角的に検討する。

メイン報告:上野景三(佐賀大学)

コメンテーター:①矢久保学(松本市南部公民館)、②佐藤進(中央大学非常勤)

司会:長沢成次(千葉大学)

記録:上田幸央(日本体育大学)

コーヒープレイク&ビデオ上映会〈15:30~17:00 504 会議室〉

日本公民館学会第2回総会 〈17:00~18:20 602 号室〉

全国理事会(第2期)〈18:00~19:00 503 会議室〉

懇親会〈19:00~20:30 602 号室〉

第2日 11月21日(日)

課題研究(2)「『新しい公共』と公民館」〈9:30~11:30 602 号室〉

現代の公民館は、「公・共」に参加できる能力の形成の機会をすべての市民に提供することを通じて、新しい「公共」圏の形成に司与できる可能性をもつ一方で、自治体再編成の中で「公共」性を喪失してしまう危機に直面している。本セッションでは、国家的「公共」から市民的「公共」への転換における公民館の課題と可能性を検討・議論する。

問題提起

①「地域社会における市民的公共圏形成の可能性」:谷和明(東京外国語大学)。

②「岡山市の新たな公民館づくりと『市民的公共性』」:内田光俊(岡山市立中央公民館)

司会：手打明敏（筑波大学）

記録：植原孝行（高崎市教育委員会）

ポスターセッション（12:30～13:50 504会議室）

○沖縄の字（集落）公民館研究

中村誠司（名桜大学）

山城千秋（熊本大学）

○松本市における町内公民館の役割と行政の支援

矢久保学（松本市南部公民館）f

○高崎市の公民館（都市型大型公民館）の配置計画

小林雄介（川崎市教育委員会とどろきアリーナ）.

○大都市の中の小さな学び社会

伊東秀明（横浜市磯子区役所）

○少年哲学堂の試み

須藤純夫（少年哲学堂主宰）

○公民館建築の変容

林啓太（日本大学）

安藤真由子（日本大学）

加藤福（日本大学）

○コミュニティー施設を再編する中央公民館

根岸昌弘（日本大学）

○市町村合併に伴う公民館等施設の再整備方法と課題—千葉県野田市と関宿町の合併に伴う事例報告—

広田直行（日本大学）

○なぜ、公民館にこだわっているか—市民運動を通じて訴えてきたこと—

富士見市社会教育を語る会（金田光正）

○公民館の条件整備はどこまで進んだか—1990年の全国調査を基に—

中央大学公民館研究会

公開シンポジウム（14:00～17:00 602号室）「埼玉から、公民館の未来を問う—地域を支える力をどう育てるか—」

埼玉の公民館は、三多摩に学び、地域性を生かしながら、独自の公民館の可能性をきりひらいてきたといわれています。しかし昨今は自治体行革との関連で厳しい状況におかれている自治体も少なくありません。埼玉の公民館の歴史と今日的模索に深く学びつつ、地域を支える力をどう育てるか、そのなかでの「公民館の未来」を、さぐってみたいと思

ます。登壇者には近接領域職員や嘱託環員など多様な属性の方をお招きし、それぞれの立場ですではじまっている摸索から、新たな視点や課題をともに考えていきましょう。

基調報告「埼玉・入閣地区の公民館は」

沖山功（鶴ヶ島市北公民館）。

登壇者 ①「市民の学びと公民館職員」

橋本蓉子（鶴ヶ島市公民館運営審議会委員）

②「公民館職員から学んだこと」

山本昌江（所沢市保健師）

③「公民館嘱託環員の現状」

岩佐周子（所沢市山口公民館（嘱））

④「公民館主事のあり方を考える」

金田光正（富士見市鶴瀬公民館）

司会 岡 幸江（埼玉大学）

記録 細山俊男（所沢市生涯学習センター）